

環境保全研究所飯綱庁舎の 最近の取組について

県版レッドリストの改訂と 生物多様性の保全

平成27年(2015年)7月23日
環境保全研究所
(所長) 藤森 靖夫
(担当) 須賀 丈 (自然環境部)
電話 : 026-239-1031 (代表)
FAX : 026-239-2929
E-mail kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

- はじめに
- 2020年目標と生物多様性県戦略
- レッドリスト改訂にどうとりくんだか？
- レッドリスト改訂から見えてきたもの
- 今後に向けて～施策への展開～
- 研究所からの情報発信

生態系サービス(自然の恵み)

供給サービス



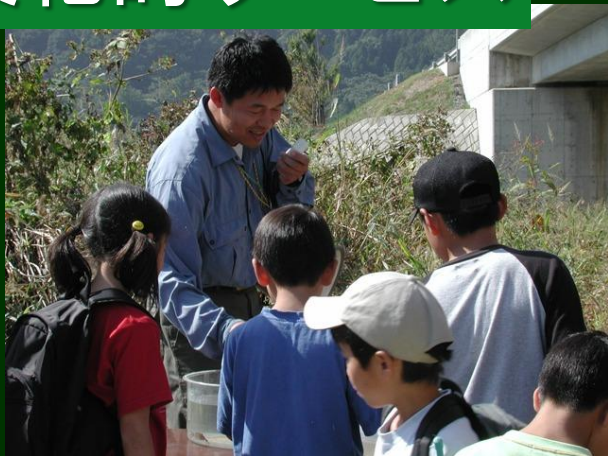
食糧、
木材、
薬...

調節サービス

水の浄化、授粉...



文化的サービス



伝統、
教育、
観光...

基盤サービス

光合成、
土壌形成
...



2020年目標と生物多様性県戦略

愛知目標(COP10採択)

- 2050年までのビジョン: 「自然と共生する」世界
- 2020年までのミッション: 20項目

目標4: 持続可能な生産と消費のための行動

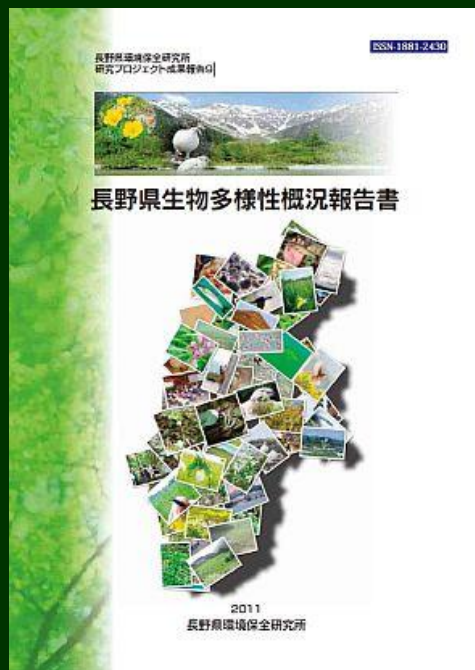
目標7: 農林業などの行われる地域を持続的に管理

目標12: 絶滅危惧種の絶滅・減少の防止

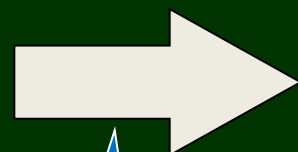


生物多様性ながの県戦略 (2012-2020)

現状と課題(2011)



環保研



県民・有識者
・各部局

行動計画(県戦略)

- ・長期目標 (2050)
『人と自然が共生する信州』
- ・短期目標 (2020)
効果的で緊急な行動
- ・5つのプロジェクト
 - 生き物アンテナProj.
 - 日本の屋根Proj.
 - 里山活性化Proj.
 - 温暖化対策Proj.
 - 地域連携・協働促進Proj.

レッドリスト

高山帯

草原再生

緩和と適応

信州生物多様性ネットきずな

レッドリスト改訂にどうとりくんできたか？

生育・生息状況の調査



県版レッドリストの改訂

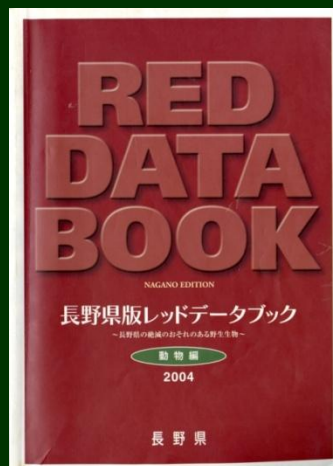
植物

2002

2005

動物

2004



2014

2015

県内で絶滅のおそれのある種の数



	前回 RDB	改訂 リスト
維管束植物	759	804
脊椎動物	81	98
無脊椎動物	329	505

どれが絶滅危惧種？



どれが絶滅危惧種？



どうやってしらべたか？

- 1 標本調査
- 2 文献調査
- 3 現地調査
- 4 アンケート調査

県全域で



人里から高山まで

改訂で何をめざしたか？

- より多くの人々の、より多くの知見
データベース化 世代間の継承
- より定量的な評価
分類群のあいだで評価をそろえる
- 生物多様性の総合評価へ
環境変化をとらえる

生物多様性の4つの危機

絶滅危惧要因の共通コード化

第1の危機: 人間活動や開発による危機

森林伐採、池沼開発、河川開発、湿地開発、草地開発、土地造成、土地改良、道路工事、ダム建設、園芸採取、不法採集、踏みつけ、転作

第2の危機: 人間活動の縮小による危機

自然遷移、管理停止(森林)、管理停止(草地)、耕作放棄、動物食害

第3の危機: 人間により持ち込まれたものによる危機

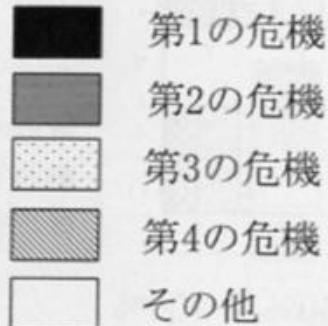
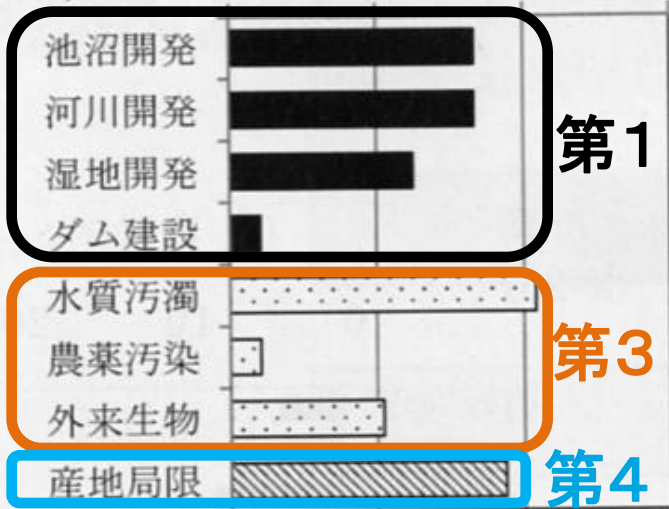
水質汚濁、農薬汚染、外来生物、遺伝子交雑

第4の危機: 地球温暖化 産地極限、気候変化

レッドリスト改訂から見えてきたもの

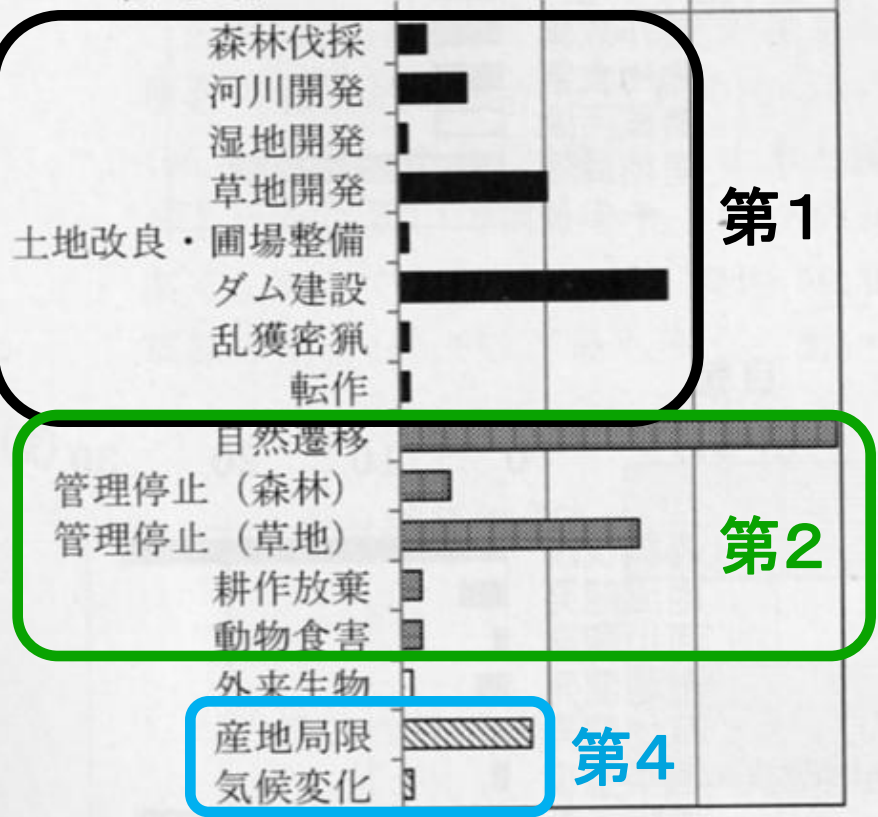
トンボ目

(N=48) 0 10 20 30 (%)



チョウ目

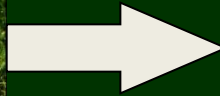
(N=148) 0 10 20 30 (%)



第1の危機

開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少

ほとんどの分類群で最も重要
全体の半数以上



第2の危機

里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下

維管束植物、鳥類、チョウ目で顕在化
よく調べられている分類群



第3の危機

外来種や化学物質などの持ち込みによる生態系の攪乱

魚類、トンボ目で顕在化

陸水生態系への影響



ウチダザリガニ



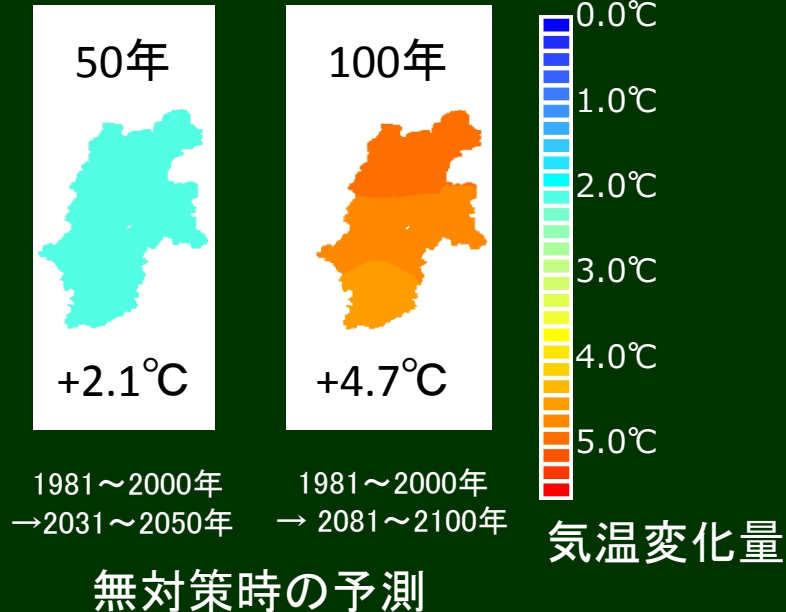
オオクチバス

第4の危機

地球温暖化などによる世界的な危機

今後顕在化のおそれ：産地局限種の多さ

高山の生物相などへの影響



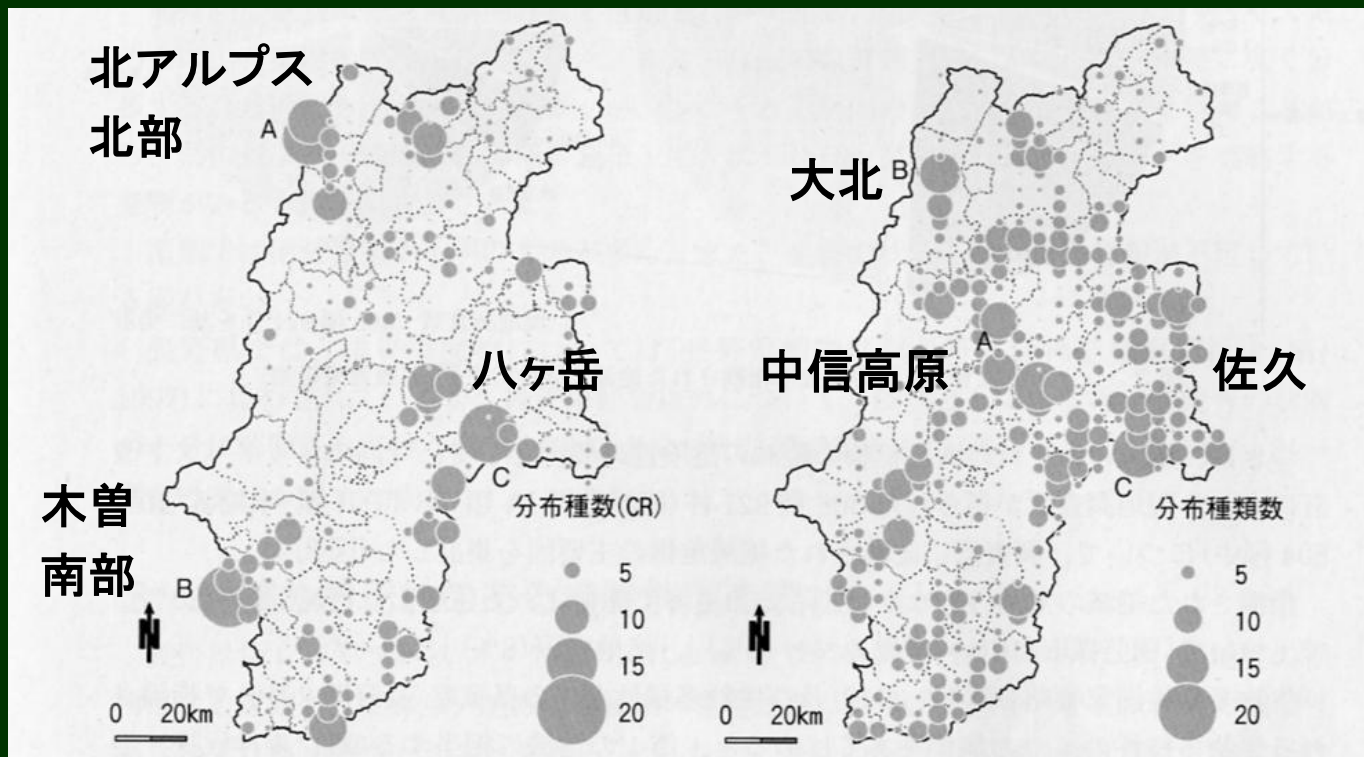
ライチョウ



コマウスユキソウ

生物多様性ホットスポット

維管束植物



絶滅危惧 I A類

ランクアップ種

国レベルの
重要地域

人里周辺の
野草地

今後にむけて：施策への展開

開田高原

伝統的な草地管理



県内で近年激減しているチョウ ²⁰¹⁵ 信毎 2/20

チャマダラセセリ 生息域を保護区に

生息域が「生息地等保護区」に指定される見通しのチャマダラセセリ



開田高原の一部 県諮問へ

● チャマダラセセリ セセリチョウ科のチョウで、手入れがされた草原などに生息する。県自然保護課によると、1980年代以前には県内45市町村に分布していたが、農家の高齢化などの影響で生息できる草原が減少。現在、県内で生息が確認されているのは木曾郡木曾町開田高原だけ。県は3月に改定する県版レッドリストで、これまでの絶滅危惧ⅠB類から、分類上で最も絶滅の恐れが高いⅠA類に格上げする。



県は19日、近年激減しているチョウの一種「チャマダラセセリ」が生息する木曾郡木曾町開田高原の一部を、県希少野生動物植物保護条例に基づく「生息地等保護区」に指定する方針を明らかにした。5月に開く県環境審議会に諮問する。同条例は2004年1月施行だが、これまで保護区の指定例はなかった。

伝統的な草地管理で花が多い



キキョウ



ユウスゲ

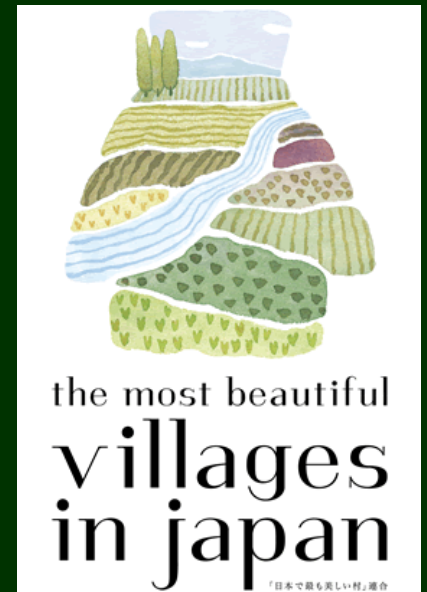


カワラナデシコ

開田高原



コヒョウモンモドキ



持続可能な地域づくり

希少種を守るのは1種でもたいへん

生息環境・ホットスポットをいかに未来に引きつぐか？

ネットワーク化→ 連携と協働

住民、行政、企業、研究者、都市と地方

地域連携・協働促進プロジェクト(生物多様性ながの県戦略)

信州生物多様性ネット

きずな



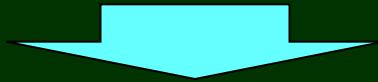
人と生きもの パートナーシップ推進事業

背景

- ◆ レッドリスト改訂結果 ⇒ 絶滅危惧の要因の多様化
- ◆ 県：希少動植物保全活動 ⇒ 行政だけでの対応に限界
- ◆ 保全活動団体： ⇒ マンパワー不足・零細な体制

事業内容

そこで



- ◆ 環境意識のある企業、都市部自治体、大学等と活動継続に困っている県内の保全団体を、県がマッチング



社会全体で生物多様性の確保を支える新たな仕組み

環境保全研究所からの情報発信

山と自然のサイエンスカフェ@信州

- くつろいだ雰囲気
科学について語り合う場
- 科学と文化をつなぐ試み



年間予定(平成27年度)

会場: MAZEKOZE(マゼコゼ)(長野市) 18:30~20:00

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 5月14日(木) | カメラでウォッチング! 山の雪融け |
| 6月11日(木) | 信州の草原の1万年 |
| 7月9日(木) | 信州の地学遺産とジオパーク |
| 9月10日(木) | シダ植物の多様性と進化 |
| 10月8日(木) | 信州のさかなの話 |
| 11月12日(木) | 里山と人との関わり~過去・現在・未来~ |
| 12月10日(木) | センサーカメラがとらえた高山帯の生物多様性 |
| 1月14日(木) | 信州の生物多様性と伝統行事 |

特別編: 研究所 夏の施設公開(飯綱庁舎)

7月25日(土) 自然の恵みとしての信州の食文化 11:00~12:00

環境保全研 飯綱庁舎(自然環境部)

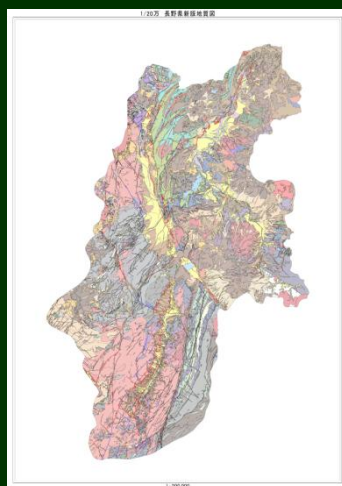
将来の気候変動の影響予測と適応
 地方都市のヒートアイランド対策
 市民の環境配慮行動の実態把握
 高山帯の生態系変動の観測
 外来生物の実態把握と普及啓発
 野生鳥獣の生態解明と被害対策の普及
 高精度デジタル地質図の整備



信州・気候変動モニタリングネットワーク

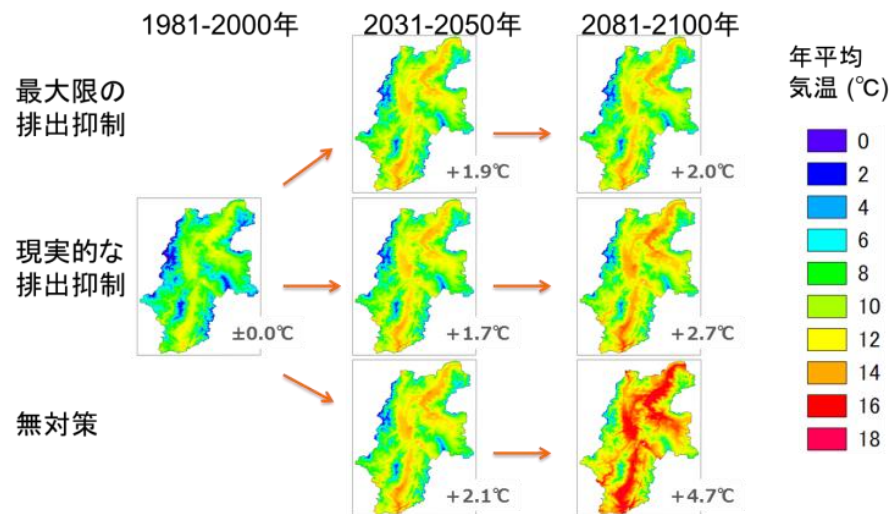


高山帯↑ シカ↓



地質図

S-8気候シナリオ第2版:年代別・RCPシナリオ別、気候モデルMIROC5



環境省環境研究総合推進費S-8の成果を基に、埼玉県環境科学国際センター・長野県環境保全研究所が作図